

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 14日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720134

研究課題名（和文） ハイナー・ミュラーのテキストにおけるドイツ語と英語の相関

研究課題名（英文） Heiner Müller's Interest in the English Expressions and Dramatic Works

研究代表者

村瀬 民子（MURASE TAMIKO）

早稲田大学・演劇博物館・研究員

研究者番号：40468848

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ドイツ語圏の劇作家ハイナー・ミュラーにおいて、創作と英語表現がどのように関わるのかを明らかにすることである。そのため、日本人研究者として初めてベルリンのハイナー・ミュラー・アーカイブを訪れ、未公開資料を詳細に調査した。これにより、従来不明だったシェイクスピア翻訳や改作の過程が明らかになり、さらにハイナー・ミュラーが英語で執筆した詩と思われる断片も発見した。ハイナー・ミュラーの英語への関心は、従来考えられている以上に、創作活動の根本に関わる重要なテーマであることを示した。

研究成果の概要（英文）：This research verifies the creation process and English expressions in Heiner Müller's text. I was the first Japanese researcher to visit the Heiner Müller Archive in Berlin; there I researched his unpublished documents. My work revealed the complete process of his translations and adaptations of Shakespeare, which were previously unclear. Moreover, I discovered a fragment of an English poem he wrote. This shows his real intent for English expressions. His interest in the English language is more essential than currently supposed, and is closely related to his creation process.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：(1) ドイツ文学 (2) 演劇 (3) 翻訳 (4) 英語 (5) ハイナー・ミュラー (6) シェイクスピア翻訳・改作 (7) アーカイヴ

1. 研究開始当初の背景

ハイナー・ミュラーの戯曲作品と散文・詩作品は、ドイツのみならず英米や日本など世界各国で注目されている。近年の文芸学や演劇学では、旧東ドイツの歴史性との関連に加えて、現代演劇の潮流を先導する戯曲として評価されている。これには、演劇学の必読文献であるハンス・ティース・レーマン『ポストドラマ演劇』での高評価も寄与している。

日本においてハイナー・ミュラーが見出されたのは比較的早く、1970年代には同時代の劇作家として注目されている（「東独演劇の特殊性とハイナー・ミュラー」『テアトロ』、渡辺知也、1976年）。東西ドイツの統一後に、その関心はいっそう高まり、主要作品の翻訳集『ハイナー・ミュラー・テキスト集』（全3巻、未来社、翻訳岩淵達治・谷川道子・越部暹、1994年）が出版され、この翻訳に基づいた上演も、盛んに行われるようになった。2002年には、かなざわ国際演劇祭で取り上げられ、翌年には、中国、韓国を含む18劇団参加による「ハイナー・ミュラー／ザ・ワールド2003」フェスティバルも東京で開催された。2008年12月には、静岡県舞台芸術センター（SPAC）において『大人と子供によるハムレット・マシーン』（大岡淳演出）も上演された。

広範に関心を集めているにもかかわらず、学術的な作品および作家研究は、日本ではそれほど進捗しておらず、翻訳による紹介と印象批評が主である。原文の精読に基づく研究成果としては、近年では、筆者による「国家・機械・身体——ハイナー・ミュラーの歴史劇にみる国家像——」『ドイツ文学』（第132号、2007年）の後に、四ッ谷亮子氏による「不可視のコロスたちへ：ハイナー・ミュラーにおけるギリシャ神話モチーフの変容『ドイツ

文学』（第133号、2007年）が公表されるに留まっている。ハイナー・ミュラー・アーカイヴの未公開資料を対象とした研究も公表されていない。本研究によって、日本におけるハイナー・ミュラー研究の更なる進展を図ることができると思われる。

2. 研究の目的

ドイツの劇作家ハイナー・ミュラーの戯曲作品の中から、シェイクスピア改作劇を中心に取り上げ、未公開資料を踏まえてテキストを精査し、ドイツ語と英語表現との相関関係を考察する。さらに、未公開資料の中には、ハイナー・ミュラー自身によって書かれた英語テキストの存在が推定されるので、それらを見出すよう努める。ハイナー・ミュラーによって書かれた英語テキストの文体分析を行うことにより、ドイツ語中心に行われた従来の研究とは一線を画す研究を行うことを目的にする。

3. 研究の方法

ハイナー・ミュラーのシェイクスピア改作劇について、出版されて現在も入手可能な各版を比較検討する。その際、シェイクスピア原文の版にも留意し、英語表現がどのような過程を経て、ハイナー・ミュラー独自のドイツ語の文体に翻訳されたのかを考証する。

さらに、シェイクスピア翻訳のみならず、英語という言葉への関心の所在を示すものとして、ハイナー・ミュラー自身が執筆した英語のテキストを、断片的なものも含めて探す。そこから、ハイナー・ミュラーの創作活動の鍵となるものを見出すことにしたい。

4. 研究成果

平成 22 年度は、研究実施計画に従って、ドイツ・ベルリンにあるハイナー・ミュラー・アーカイブを訪れ、ハイナー・ミュラーの未公開テキストにおいて、英語がどのように用いられているかを初めて調査した。現地では、資料目録の一部を複写することが許可され、資料の全体像を把握することができた。保管されている膨大な資料に関し、詳細な目録がデータベース化されており、アーカイブ内では検索できることが分かった。ただ、テキストに英語が含まれているかどうかは、一つ一つを読んで判断しなければならない。重要な手稿は、一件ずつ写真撮影され、デジタル化が順次進められている。したがって、「Werknotiz」に分類された資料の中から、デジタル化された全ての資料について、英語がどの程度含まれているかを調査した。さらに、デジタル化されていない資料の中にも、英語が含まれる重要な資料を発見した。このアーカイブに保存された資料の一部は、ハイナー・ミュラー全集のゾーアカンフ版において、遺稿として出版されているが、その中には、英語に関するものはほとんど見当たらない。この調査において初めて、ハイナー・ミュラーの英語への関心の実際的な側面が確認されたといえる。

平成 23 年度にも、ドイツ・ベルリンにあるハイナー・ミュラー・アーカイブを訪問した。今回は、ハイナー・ミュラーの未公開テキストにおいて、特に「翻訳」の問題に着目し調査した。アーカイブでは、従来は簡易にファイルされていた目録を、全 5 巻にわたる「Findbuch」として製本したばかりであり、資料の整理が進捗していたこともあって、調査は順調だった。昨年度は、アーカイブ調査研究のスタートとして、英語に関連する資料を網羅的に調査したので、今年度は、英語に

関連する資料の中でも、シェイクスピア翻訳と改作に関する資料を重点的に取り上げた。その結果、例えば、翻訳の草稿に複数の翻訳協力者のコメントがみられるなど、今まであまり知られていない事実を確認した。また、初稿から数次の稿を経て翻訳が完成する過程も理解することができた。

ドイツ語圏では、シェイクスピア翻訳は伝統的に文芸上の重要な問題として扱われているので、多くの既訳があるとともに、翻訳論などの関連文献も膨大であり、内容も多岐にわたっている。今回の調査では、ハイナー・ミュラー自身が参照した文献の中でも、従来あまり言及されていない先行訳や、演劇関係者が作成した翻訳論の資料などの詳細を確認することができた。

さらに、ハイナー・ミュラー自身が執筆した英語の詩と思われる断片を発見した。このことにより、ハイナー・ミュラーにとって英語への関心が、従来考えられていたよりも密接に創作に関わっていることがわかった。

このような調査結果の一部は、日本独文学会で発表することができた。学会では、「翻訳」に関する問題意識は高まっており、何人もの研究者から、資料へのアクセス方法や内容、今後の研究計画などについて質問を受けた。

研究実施計画の一環である資料収集については、ベルリンにおける演劇史の資料などの各種文献や、1970 年代以降の音声資料集を購入した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

村瀬 民子、翻訳の生産力—ハイナー・ミ

ュラーによるシェイクスピアの翻訳と改作、
日本独文学会、2011年10月16日、金沢大学

[その他]

ホームページ等

研究代表者が編集協力したハイナー・ミュラー
の書誌情報は、以下のHPに公開されてい
る。

[http://www.germanistik.uni-hannover.de/d
spub_hmueller.html](http://www.germanistik.uni-hannover.de/dspub_hmueller.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村瀬 民子 (MURASE TAMIKO)

早稲田大学・演劇博物館・研究員

研究者番号：40468848